

Mitsumori

株式会社 三森コーポレーション 2025 秋号
028

いい仕事は、いい部品から!!
厳選されたリビルトパーツが、その差をつくる!!

キラリこの1台

みつもりコミック

Shall we take a break? 車のタイヤはなぜ黒い?
タイヤの歴史を辿ってみよう

表紙のモデル:整備士男性:新井山 有恒 整備士女性:岡村 祐佳 撮影:嵯峨 倫寛 編集:(有)レイランド

※撮影は万全を期して行っております。役柄に関してはあくまでも演出です。
※みつもりコミックの文章は本人の原稿を元にchat GPTにて編集しております。

Mitsumori's Staff 中古部品マイスター

三森コーポレーションが誇る中古部品に関する プロフェッショナルスタッフをご紹介します

佐藤 香

KAORI SATOH

主な業務:販売フロント 勤続年数:7年



今の仕事について、仕事で気を付けている事

入社当初は総務課で請求書や納品書の発行業務を行っていましたが、3年前からフロントとして販売課に異動いたしました。総務課時代よりもお客様と直接お話しする機会が増え、大変楽しく感じています。まだ自動車部品について十分学び切れていない部分もありますが、頼りになるベテラン先輩のサポートを受けながら、お客様のニーズにぴったりの商品をご紹介できるよう、毎日心を込めて取り組んでいます。



お客様へ

いつも三森コーポレーションにお問い合わせいただきありがとうございます。お探しの商品をしっかり見つけるのはもちろん、ご購入後も自慢の「完全保証パック」でパッチリサポートいたします。頼れるベテランスタッフが勢揃いですので、まずはお気軽にお電話やFAXでご連絡ください。皆さまからのご連絡を、スタッフ一同楽しみにお待ちしております!

趣味・特技・ハマっている事、お勧めスポットなど

私が最近熱中しているのは、ズバリ「パズル」です。子どもたちが興味津々で購入したことがきっかけでしたが、今では私一人が週末のひとときを使い、ワクワクしながらピースを組み合わせています。最近のパズルは、昔のものとは著しく異なっています。まず、ピースの素材が進化し、昔の厚紙とは異なり、プラスチックやスケルトン素材のものが多く登場しています。写真にあるアリエルのパズルはその一例です。ピース同士がしっかりとくっつき、接着剤が不要な点が嬉しいです。さらに、もう一つの驚きは、角度によって見え方が変化するデザインです。スティッチのパズルは、見る角度によって夜空に星が輝く様子を楽しむことができます。しかし、ピース数がもう少し少なくシンプルであればよいと考えもありますが、年内完成を目指して少しずつ取り組んでいます。



愛車と選んだ理由、気に入っている点

私の愛車は、三菱のEKスペースカスタム(B11A後期ターボ)であり、毎日の通勤を楽しんでいます。普通車しか乗ったことがなかった私にとって、デイズルークスOEMならではの衝撃が多々ございます。現代の軽自動車は、広々とした室内に工夫が施された収納スペースがあり、維持費もお手頃で、洗車後の拭き上げのしやすさにも驚いています。個性的で他とは一線を画すデザインが決め手であり、フロントのメッキが輝いている点がお気に入りです。まだ走行距離が2万キロである大切な愛車については、これからも大切に乗り、将来的には娘が免許を取得した際に譲ってあげられるように大事に乗りたいと思います。



自動車リサイクル部品の供給で地球温暖化に貢献する

Green Point Club

2025年1月～8月までの8ヶ月間で弊社が販売した自動車中古部品・リビルト部品のCO2削減量は
978,262kg (978t) の削減でした。
杉木に換算すると69,875本でした。

※杉の木1本で年間約14kgのCo2吸収量(出典:環境省/林野庁)

※Co2削減データはグリーンポイントシステムにより算出しました。

日本自動車リサイクル部品協議会と早稲田大学環境総合研究センターの共同で、自動車リサイクル部品の活用が新品部品に比べて環境負荷削減効果がどの程度あるか、環境負荷の差をCO2削減効果として換算・数値化する「グリーンポイントシステム」を開発しました。これにより1点1点の部品に対して新品を使用する場合とリサイクル部品を使用する場合を比較し、その差を「CO2削減貢献ポイント」として数値が見えるようになりました。

弊社は、一般社団法人日本自動車リサイクル部品協議会及び、グリーンポイントクラブに加盟しているリサイクル団体[SPN]の正規会員です。 参照:<https://www.japra.gr.jp/>



Mitsumori Corporation

株式会社 三森コーポレーション

〒983-0821 宮城県仙台市宮城野区岩切3丁目2番24号
部品のお問合せ: TEL 022-255-6564 FAX 022-396-1008
URL <http://www.3mori.co.jp>



■報告者：岩住 知明
■車 名：マツダ CX-5
■型 式：DBA-KEEFW

今回私がご紹介する車は、「マツダ CX-5」です

マツダの顔とも言える存在、CX-5の魅力を紹介！

皆さん、こんにちは！販売課の岩住です。

今日は、私の愛車であるマツダCX-5についてご紹介いたします。私の愛車は、まさにマツダの顔とも言える存在で、免許取得後に迎えた2代目の車となり、今なお頼もしく走り続けています。今回は、CX-5の魅力と特徴、そして私の思い出についてお伝えいたします。

愛車との出会い

学生時代に免許を取得した当初、車への関心はそれほど高くなく、足車として軽自動車に乗っていました。しかし、ドライブでの遠出を楽しむうちに、車の仕組みや整備にも興味を持ち、軽自動車では物足りなさを感じるようになりました。

ある日、偶然訪れた自動車販売店で、インパクトのあるフロントグリル、深みのある赤色、そしてSUVらしいスタイリングに心を奪われ、試乗した際の運転のしやすさやエンジンルームのメンテナンス性も決め手となり、今の愛車を選びました。

愛車の特徴について

初代マツダCX-5は、2012年発売に先立ち、グローバル市場のSUV需要の高まりと環境規制の強化を背景に、マツダ復活の象徴として開発されました。新世代技術「SKYACTIVTECHNOLOGY」の採用により、軽量で剛性の高いボディ設計が実現され、走行性能と安全性を両立しています。さらに、革新的な「魂動デザイン」により、流麗で躍動感のある外観と快適な室内空間を実現しています。市街地はもちろん、アウトドアシーンでもその実用性が高く評価され、マツダのブランド戦略に大きく寄与しています。

私はディーゼル車よりも、長距離ドライブでの静粛性とパワフルな走りを重視し、2.0LガソリンFF車を選択しました。

思い出のミラーボール

個性的なスタイルを好む私にとって、車体の色に合わせた赤いメタリックホイールやメッキパーツ、LEDを活用した電飾カスタムは唯一無二の存在です。中でも、室内天井に取り付けたミラーボールは、かつて知人から「エレクトロカルパレード」と称され、また見知らぬ方から写真撮影の依頼を受けるなど、印象的なエピソードとなっています。広い駐車場でもひときわ目立つこのカスタムは、私にとって大切な思い出です。

愛車との思い出

各地を観光し、風景を楽しむのが好きな私は、長期連休には長野県の知人を訪ねたり、SNSで話題のスポットまで下道で10時間以上かけてドライブすることもあります。

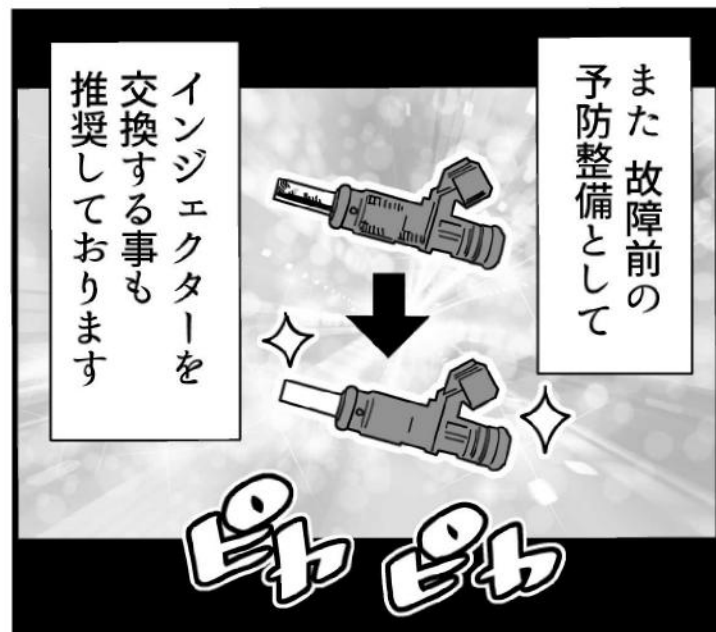
道中、故障や事故があった際も、きちんと修理・メンテナンスを施し、気づけば16万キロを走り抜けた大事な相棒となっています。共に過ごした時間はすべて、かけがえのない思い出です。

最後に

初めてステアリングを握った日から、多くの時間を共にし、まるでその旅路の記録が刻まれているかのように、車体にはたくさんの思い出が刻まれています。遠方ドライブや突然のトラブルさえも、愛車と共に過ごした日々の記憶として心に刻まれています。この16万キロの旅路で得たのは、単なる移動手段の便利さを越えた、時間を共有するパートナーであるという証です。愛車を選んだ日の胸の高鳴り、カスタマイズを施した際のワクワク感、そして洗車やメンテナンスに費やす時間など、積み重ねてきたものは、まさに愛着という形で車に宿っています。これからも、大切な愛車と新たな道を走り、素晴らしい景色を見ながら、もっとたくさんの思い出を作っていけることを楽しみにしています。

買い替えをすることもありますが、これからも私の相棒として、今後20万キロ走破することを目指しています。



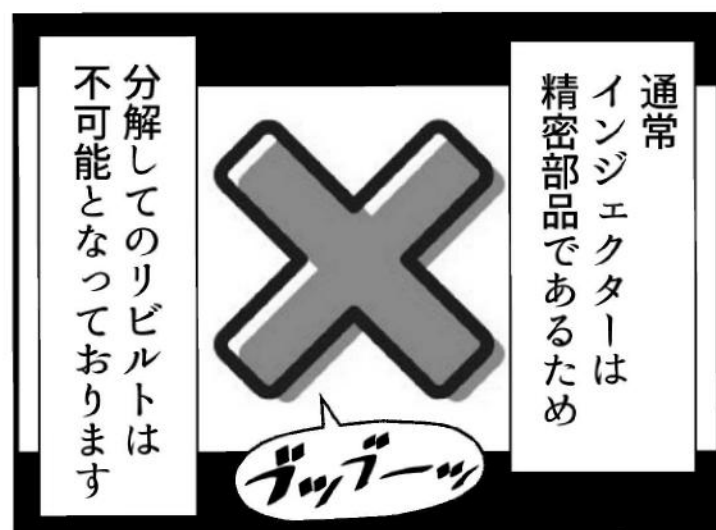


インジェクターを
交換する事も
推奨しております

また故障前の
予防整備として

インジェクターの
噴射状態を
良好に維持することで
エンジンやターボ
触媒等の故障発生率を
最小限に抑え
結果的に高額修理の
リスク低減が期待できます

それは
助かるっ!!!



通常
インジェクターは
精密部品であるため

分解してのリビルトは
不可能となっております





三森のリビルトインジェクター

弊社では
専用の機材と洗浄液
適切な温度管理
超音波を活用して
ノズル先端や内部に
堆積したカーボンや
汚れを効果的に除去し
最終的に噴射テストを
クリアした製品のみを
ご提供しております

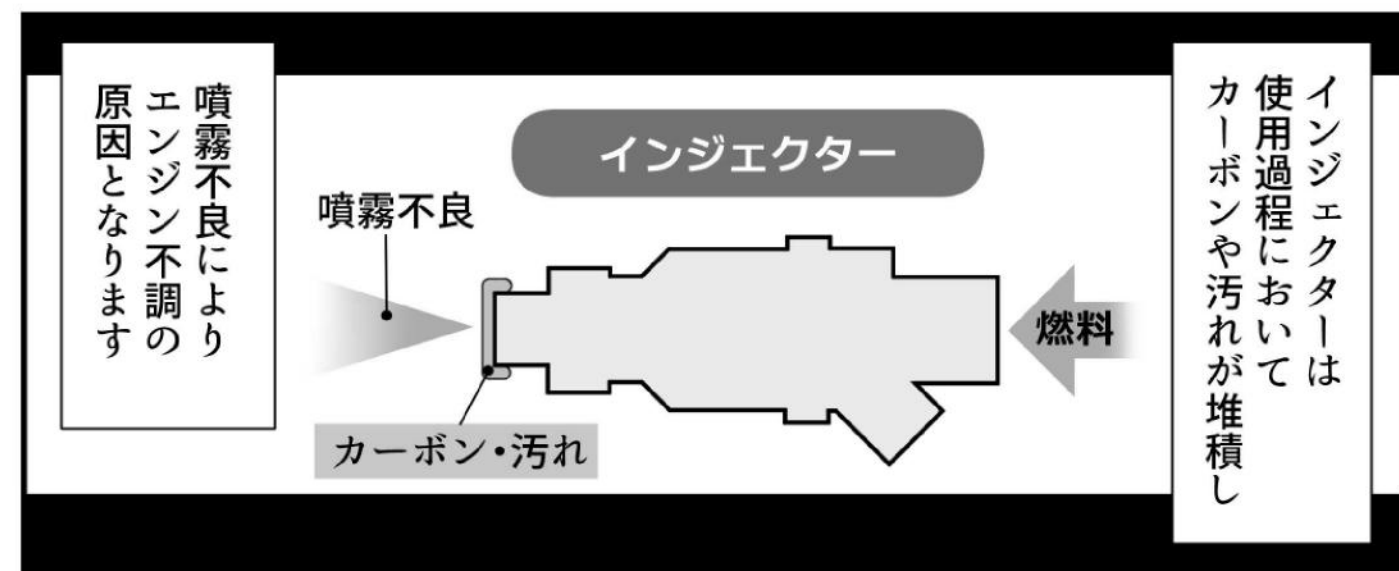


リビルトインジェクターは
新品と比較して非常に
コストパフォーマンスが高く
費用の削減に繋がります



皆さんこんにちは！
総務部の芦立です

今回は
リビルト(洗浄)
インジェクターについて
ご紹介いたします



ほっ！と、ひと息いかがですか？ Shall we take a break?

～3分で読める休憩コラム～

クルマのタイヤはなぜ黒い？ タイヤの歴史を辿ってみよう

「車のタイヤ」を思い描くと必ず「黒」になりませんか？

自転車などはドレスアップパーツにカラータイヤがありますが、クルマにおいては、タイヤ専門店であってもなかなか見かけませんよね。カラータイヤは商品化されていますが、一般的なのはやはり黒色。今回は、そんなタイヤの歴史をたどってみたいと思います。

タイヤの起源は紀元前3000年頃にまで遡ります。現在のイラクにおいて、荷物を運ぶソリに「車輪」を付けたのが始まり。木の板を丸くつぎ合わせ、外周を動物の皮で覆う簡素な作りでしたが、ソリをそのまま滑らせるよりはるかに摩擦を軽減でき、輸送能力は急激に向上したそうです。その後、スポーク(中心部分から外側の輪に向かって放射状に出る棒)を取り入れるなど進化を重ねながらローマ時代には「鉄のタイヤ」が登場。強度が格段に上がりました。

ゴム製のタイヤは1835年に誕生。最初は鉄の車輪の周りにゴムの輪を付けただけのもので、その後1845年に「空気入りタイヤ」が発明されました。実用化はすっと後の1888年。イギリスのJ.B.ダンロップが自転車用に空気入りタイヤを開発し、その後、1895年にフランスのミシュラン兄弟が自動車に空気入りタイヤを装着し、パリ・ボルドー間の往復レースに出場。これが空気入りタイヤを初めて自動車に使った記録だそうです。このレースはバンクの多発でリタイヤとなってしまうものの、途中には優勝者の平均速度の約2倍にあたる時速をたたき出したため、翌年のレースではほとんどの出場者が空気入りタイヤを使い、1900年代には一般車両にも普及。クルマのタイヤが今の形状になったのは、わずか130年前だったんですね。

この頃のタイヤは黒ではなく、白色や鉛色が主流。ゴムの樹の樹液を固めて整形しただけのもので耐久性に劣りました。そんなタイヤが黒色になるのは1912年のこと。ゴムに「カーボンブラック」と呼ばれる炭素の粉末を混ぜると、強度が高まることがわかりました。また、カーボンブラックは紫外線を吸収する働きがあり、屋外で使用する自動車のタイヤに使用されるゴムの補強剤として、うってつけの材料だったのです。カーボンブラックそのものは、もともと着色料として工業用品などに使用されており、少量で漆黒の黒を再現できます。そのため、強度を重視してタイヤにカーボンブラックを練り込むことで黒色のタイヤになるのは当然。タイヤの「黒」は、強度を追求した末にたどり着いた、機能性重視の色なのです。

しかし、低燃費やエコをうたった最近のタイヤにはカーボンブラックの混入量は減り、ゴムの補強剤としてシリカ粒子を微細化したホワイトカーボンが使用されるようになりました。ホワイトカーボンの耐久性や紫外線耐性もカーボンブラック並になったため、近年では、ホワイトカーボンに黒以外の着色を行ったタイヤを開発する動きもありました。

しかしながら、まだ現在はカラータイヤの普及にはいたっていません。技術的には可能なため、あとはニーズ次第ということでしょうか。カラフルなタイヤが街を彩る日も、そのうちやってくるのかもしれません。



上記の記事は、自動車業界専門コンサルティング会社
「株式会社チームエル」様のご協力によりご提供いただいています

Team-L
株式会社チームエル <https://team-l.co.jp/>

弊社では
洗浄済み製品の品揃えも
充実しており

例えばハイエース
キャラバン
エルフ
MAZDA2などの
即納在庫を
取り揃えております

さらに 必要に応じて
現物をお預かりしての
洗浄サービスも
承っております

対応車種や
品番につきましては
フロントまで
お問い合わせください

弊社販売の商品には
「完全保証パック」が
付帯しており
1年間(距離無制限)の保証!!

お客様に安心して
ご利用いただけます

リサイクル部品&リビルト部品に最高の安心を
完全保証パック

お車のパフォーマンスを
維持するためにも
新品同様の品質を実現した

三森コーポレーションの
リビルトインジェクターを
ぜひご活用ください